

専門研修プログラム名	香川大学病院連携施設精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	香川大学医学部附属病院	
プログラム統括責任者	中村祐	

専門研修プログラムの概要	<p>本施設群には14の連携施設があり、典型的には1年目は基幹施設で研修し、2～3年目で希望に応じて連携施設をローテートして研修する。専攻医は最大で年7名程度を予定している。基幹施設である香川大学医学部附属病院は、県内唯一の大学病院であり、精神科病棟を持つ総合病院として、身体疾患を合併する精神疾患患者の治療、リエゾン・コンサルテーション、緩和ケアなどを経験することができる。また香川大学には認知症疾患医療センターを併設しており、認知症の診療や臨床研究にも力を入れている。さらに、「子ども家族・こころの診療部」において、心身症や発達障害、神経症性障害など児童の診療も行っており、児童精神医学から老年期精神医学まで幅広く経験する機会を有している。</p>	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	<p>研修開始後、専攻医は上級医の指導のもとで入院患者の主治医を担当し、コメディカルスタッフ（看護師、臨床心理士、薬剤師、栄養士、精神保健福祉士など）とチームを形成して治療に当たる。また、上級医の指導のもとで他科からの往診依頼に対応する。さらに研修開始から数か月後には外来診察も担当する。毎週行われるカンファレンスでは、入院および外来新患症例に関して詳細な検討が行われる。このように、精神科医に必要な知識や経験を習得する研修システムが整備されている。</p>	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	指導医と一緒に患者を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法、精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法、精神分析・精神力動療法、森田療法のいずれかのカンファレンス、セミナーに参加する。
	学問的姿勢	症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を行う。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、等のコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。また、身体科との連携、先輩医師や他の医療スタッフ等から社会性、倫理観などを学ぶ機会を得る。

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目：指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持つ。2年目：指導医の指導を受けつつ自立して、神経症性障害、種々の依存症患者の診断・治療を経験する。3年目：認知行動療法や力動的療法を上級者の指導の下に実践し、心理社会的療、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。学会等で症例発表する。
	研修施設群と研修プログラム	基幹施設：香川大学医学部附属病院 研修連携施設 ①小豆島病院 ②三光病院 ③馬場病院 ④いわき病院 ⑤こころの医療センター五色台 ⑥三船病院 ⑦丸亀病院 ⑧四国こどもとおとなの医療センター ⑨西香川病院 ⑩大西病院 ⑪清水病院 ⑫しおかぜ病院 ⑬牧病院
	地域医療について	大学病院を含めて各施設群は当然地域医療にも深く関与している。各施設の職員(PSWやMSW等)だけでなく、外部の施設(介護施設等)の職員とも連携し、患者の生活環境の調整なども行っている。
専門研修の評価	3ヶ月毎に、プログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し研修プログラム管理委員会に提出する。6ヶ月毎に研修目標の達成度を当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ評価しフィードバックする。1年毎に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。研修実績および評価には研修記録システムを用いる。	
修了判定	研修プログラム管理委員会の中に評価委員会を設置し、そこで研修の修了を判定する。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修プログラム全体の管理を行う。
	専攻医の就業環境	基幹施設の就業規則：勤務時間(日勤帯)08:30～17:15(実働7時間45分)(当直帯)17:15～08:30(当番でのオンコール体制、手当あり、上級医のバックアップあり)休日①日曜日②土曜日③国民の祝日④法人が指定した日 年次有給休暇(初年度10日)、夏季休暇(3日)、慶弔休暇、産前産後休暇、介護休業、育児休業など。連携施設の就業規則：各施設によるが、原則として日勤帯の勤務時間は7.75時間である。当直業務は週1回程度で別途対価が支払われる。全施設において、日本精神神経学会総会、同地方会等の学会への出席には交通費を研修中の施設より支給する。
	専門研修プログラムの改善	専攻医と指導医で研修状況を確認する際に、研修プログラムや研修環境についても意見交換する。専攻医から得られた研修プログラムに対する評価はプログラム管理委員会に提出される。プログラム管理委員会は定期的にプログラム内容について討議し改良を実施する。
	専攻医の採用と修了	専攻医の採用は日本専門医機構に応募された医師の中から、プログラム管理委員会が決定する。専攻医の修了は上記修了判定のとおりである。

	<p>研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件</p>	<p>研修の中止・中断、プログラムの移動、プログラム外の研修は、各専攻医の申請に基づき、プログラム管理委員会が判断するが、可能な限り、専攻医の希望に沿うように行う。</p>
	<p>研修に対するサイトビジット (訪問調査)</p>	<p>現在は予定していないが、専門医機構等からの要請があれば、実施していく。</p>
<p>専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。</p>	<p>香川大学 精神科神経科科長 中村祐：小豆島病院 院長 村田昇：三光病院 院長 海野順：馬場病院 院長 馬場信二：いわき病院 医局長 松岡美穂：こころの医療センター五色台 院長 佐藤仁：三船病院 副院長 川田浩：丸亀病院 精神科部長 伊藤嘉信：四国こどもとおとなの医療センター 児童精神科科長 中土井芳弘：西香川病院 院長 大塚智丈</p>	
<p>Subspecialty領域との連続性</p>	<p>老年精神医学会、認知症学会、総合病院精神医学会、児童青年精神医学会の専門医が在籍しており、指導を受けることができる。</p>	